

株式会社土佐龍

高知県須崎市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

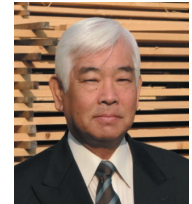
ポイント

国内外を魅了する「四万十ひのき」の名付け親。 「木の料理人」がつくるひのきのまな板は、生産量日本一を誇る

- 世界7カ国以上の有名小売店等に対し、「四万十ひのき」のまな板を年間2万枚以上を輸出
- 「四万十ひのき」の有効活用のみならず、地域産業の安定、若手育成にも取り組んでいる
- 高い国際競争力を持つ「四万十ひのき」は、機能面でも秀でており、絶大なる支持を集めている

企業基本情報

所在地	高知県須崎市浦の内東分 2830
電話/FAX	0889-49-0111/0889-49-0049
URL	http://www.tosaryu.com
代表者	代表取締役 池 龍昇
設立	1970年
資本金	3,500万円
従業員数	34人



会社概要

資本金 3,500 万円、従業員 34 名の木材・木製品製造業である。高幡地区のヒノキを「四万十ひのき」の名称でブランド化するなど、約 400 種類の木製家庭用品を手がけている。

なお、木製家庭用品の中心はまな板で、その生産量は日本一である（年間約 25 万枚）。日本国内・国外に広く販路を有しており、最近では、有名俳優等のオリジナルブランドのまな板も製造している。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ 世界各国に「四万十ひのき」のまな板を年間約 2 万枚輸出

同社は、四半世紀前より海外へ進出している。現在では、米国、中国、オーストラリア等 7 カ国以上の有名小売店に、年間 2 万枚の四万十ひのきまな板を輸出。インド、タイ、フィリピン、インドネシアにも販路を拡大する予定。素材は、全て間伐材や端材を使用。環境問題に敏感な海外バイヤーに受け入れられてきた。また最近では、海外でのまな板需要拡大が顕著である。和包丁が世界的に受け入れられてきたため、和包丁の人気拡大に比例して、刃物に優しい「木のまな板」が人気を得ている。



7カ国以上に、年間2万枚以上を輸出

▶▶▶ 地域資源の有効活用や地域産業の安定、若手育成にも取り組む

県土の約 84% を森林が占る、高知県四万十地域で育ったヒノキは「四万十ひのき」と呼ばれる。社長はこう語る「料理人が素材を捨てないように、私たちも木を捨てない、私は木の料理人、全てを活かす」と。通常約 4 割が製材過程で捨てられると言われる材木を、同社はバス・キッチン用品を中心とした約 400 種類の製品開発につなげ、廃棄を抑制し、最大限活用してきた。さらに、地域におけるサプライチェーンにも着目し、林業の衰退や原木価格の下落保全を目的とした取組を続けている。



「すべてを活かす」ことで 400 種類を製品化

▶▶▶ 大手小売店や有名俳優・料理研究家にも支持される高い革新性

年間約 25 万枚の木製まな板を生産。木種の性質を知り尽くし機能やデザインを追求、先様の要求品質に応え高品質なものづくりにこだわる同社は、品質検査が厳格な大手小売店の指定工場に認定。また、有名俳優や料理研究家からもブランドまな板の製造を依頼され絶大なる支持を得ている。「四万十ひのき」のまな板は、他の木に比べ油分が多いことで、水切れがよく調理に最適、黒ずみや劣化を防ぎ耐久性抜群といった特徴がある。さらに、日本は唯一のヒノキ伐採国であり高い国際競争力を有する。



大手小売店が認めた日本一の高品質まな板